

NPO エコライフはままつの皆さまへ

はじめまして。私はマラウイのンジェワという地区で、表現芸術科目指導のアシスタントとして活動している、永井美郷と申します。この度は、私たちのためにソプラノリコーダーを寄贈していただき、ありがとうございます。先月下旬にこちらに届き、今月から使用させていただいています。教師も生徒も興味津々で、とても嬉しそうに練習していますので、そのお礼を兼ねて、報告させていただきます。

【マラウイとンジェワ地区の紹介】

アフリカ南東部にあるマラウイは、周りをモザンビーク、タンザニア、ザンビアに囲まれた小さな内陸国です。国土の約 5 分の 1 を湖が占めており、雨期になると緑が生い茂る自然豊かな国です。電気や水道の普及率は都市部と農村部、富裕層と貧困層で差があります。電気や水道が通っていても停電や断水が多いため、毎日電気や水が使えるとは限りません。

私が活動しているンジェワ地区は、首都リロングウェから西へ約 15km のところにある村です。コンクリートで舗装されていない道路がほとんどのため、雨期には道がぬかるんだり大きな水たまりができたりして、裸足で通学する子どもたちの障害になっています。国民の 8 割以上が農業従事者のこの国では、雨期になると子どもを学校に行かせずに畑仕事を手伝わせる家庭もあります。国民の約 4 分の 1 が小学生であるマラウイでは、子どもたちが重要な働き手となっています。



↑ 通学路の一部

↑ ンジェワ地区の電気が通っている家

【贈呈した教師研修センターと小学校の紹介】

今回寄贈していただいたリコーダーは、私の配属先であるンジェワ教師研修センターに贈呈させていただきました。ンジェワ教師研修センターは、同地区モデル校のンジェワ小

学校に併設されており、ンジェワ地区にある公立の小学校（8年制）11校とセカンダリースクール（日本でいう中学3年～高校生）2校を統括しています。モデル校であるンジェワ小学校の生徒数は約2500人です。

ンジェワ小学校で最初にリコーダーを使おうと思っていたのですが、リコーダーを吹いてみたいという強い要望があったンジェワ地区内のエアベース小学校で、まず使わせていただきました。エアベース小学校はその名の通り空軍基地に隣接しており、軍人の子どもが多く通っています。ンジェワ小学校より規模が小さいですが、好奇心旺盛で活発な生徒が多いように感じています。この学校の7年生と8年生の授業でリコーダーを教えました。



初めは上手く構えることも正しい音を出すことも出来ませんでしたが、根気強く練習して少しだけ音が出せるようになりました。ちょっとでも上手く吹けるととても嬉しそうで、前に出て披露したがる生徒がたくさんいました。7年生の先生がリコーダーを吹いた経験があったようで、先生と協力しながら教えることができました。小学校の授業は1コマが35分と、日本の小学校よりやや短いです。そのため、1回の授業では生徒は物足りなかったようで、授業の終わりにリコーダーを回収しようとしてもなかなか持ってこようとしない生徒もいました。帰り際には「次はいつ来るの?」「楽しかった」と何人もの生徒に言ってもらえて、私もとても嬉しかったです。



↑エアベース小学校の8年生

↑エアベース小学校の校長先生

エアベース小学校の校長先生と生徒たちに、このリコーダーが日本の団体の好意で寄贈

していただいたものと伝えると、「Thank you very much!」と笑顔でお礼を言われました。マラウイの表現芸術の授業で使う楽器は、現地の太鼓やマラカスのようなものしかありません。教科書では少しだけ絵で紹介されているものの、ほとんどの生徒が教科書を持っていないため、先生の口頭での説明で終わることがしばしばです。そのような環境にいる子どもたちに、実際に楽器に触れる経験をさせてあげられたことは、すごく大きなことだと思います。また、私は5～8年生の授業に入っているのですが（5年生からは現地語ではなく英語で授業を行うため）、普段あまり関わりのない低学年担当の先生からも、リコーダーの授業をして欲しいという声があがっています。

今回いただいたリコーダーは、今後もンジェワ地区内の小学校の授業や放課後のクラブ活動で使用していく予定です。また、私の帰国後も現地の先生だけで指導できるよう、先生向けの研修も行おうと考えています。一人でも多くの生徒がリコーダーに触れ、楽しんでもらえるよう努めます。本当にありがとうございました。

《報告者》

青年海外協力隊

平成27年度2次隊派遣

青少年活動（マラウイ）

永井 美郷